



## 平成19年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年7月28日

上場会社名 株式会社 な と り

（コード番号：2922 東証第一部）

（URL <http://www.natori.co.jp/>）

問合せ先 代表者 代表取締役社長 名取 三郎

（TEL：(03)-5390-8111）

責任者 経 理 部 長 名取 治

### 1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用有無 : 有  
 （法人税等の計上基準）  
 法定実効税率をベースとした計算を行っております。  
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無  
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

### 2. 平成19年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成18年4月1日～平成18年6月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況（金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期(当期) 純 利 益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
19年3月期第1四半期	7,821 ( 3.5)	462 ( 54.0)	468 ( 49.8)	271 ( 52.1)
18年3月期第1四半期	7,557 ( 1.3)	300 ( 13.8)	312 ( 16.6)	178 ( 16.2)
(参考)18年3月期	31,215	908	963	541

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第1四半期	19 13	17 51
18年3月期第1四半期	12 84	11 51
(参考)18年3月期	38 23	34 38

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

(2) 財政状態（連結）の変動状況（金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。）

	総 資 産	純 資 産	自己資本比率	1株当たり 純 資 産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	23,515	13,169	56.0	927 00
18年3月期第1四半期	23,133	12,332	53.3	886 02
(参考)18年3月期	24,294	13,027	53.6	916 49

### 【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	1,119	215	1,071	602
18年3月期第1四半期	440	50	549	959
(参考)18年3月期	351	231	259	769

経営成績（連結）の進捗状況

わが国経済は、民間設備投資の増加、家計の消費増など全体として景気回復傾向にあるものの、アメリカ経済の動向、原油価格の高騰など先行きに懸念材料が残っております。

加工食品業界・小売業界としては、依然として企業間の厳しい販売競争が続いております。また、食品の安心・安全に対する消費者の関心は、米国におけるBSEの発生、鳥インフルエンザの発生以後ますます高まっており、更なる品質管理の徹底と安全性が強く求められております。

このような状況のもと、なとりグループは、食品メーカーとして、安心・安全を最優先に掲げ拡販に取り組んでおります。品質管理体制の強化のため、各工場にX線装置・金属探知機の増設等、安心・安全により重点をおいて進め、常にお客様に信頼される商品を提供するために原料仕入から生産現場、店頭まで並ぶまでの衛生管理に細心の注意を払っております。

販売面では、これまで珍味売場を主要なマーケットとして、「水産」「畜肉」「酪農」「農産」「その他」という5つのジャンルで事業戦略を展開してまいりましたが、当期より新しいマーケットの創造と開拓を目指すため珍味売場向け5製品群と珍味売場以外の4製品群（「小物菓子」「素材菓子」「スナック菓子」「チルド」）の「2カテゴリー9ジャンル」にきめ細かく分類し、各ジャンルにおいて、積極的に商品開発、販売戦略を推進してまいります。

当第1四半期の新商品開発につきましては、珍味売場向けカテゴリーとして、バジルをチーズに混ぜ込み豊かな香りを再現したピザラとのコラボレーション商品「ピザラチーズ鱈イタリアンバジル味」、デンマーク産のポークのみを使用した「贅沢粗挽きサラミ」、三陸沖で獲れた赤いかのなんこつを加工した「おいしいいかなんこつ」、国産のするめいかのみを使用し桜のチップでスモークした「するめいかの皮つきいか燻」などの製品拡充を図りました。一方、珍味売場以外のカテゴリーでは、当社のロングセラーである「チーズ鱈」のチルド製品化を本格的に進め、チルドならではのなめらかさ、クリーミーさを特徴とした「チーズたらプレーン」「チーズたらバジル&ガーリック味」を新たに市場へ投入いたしました。当第1四半期の売上高に占める新商品売上高構成比は31.4%となりました。

これらの結果、当第1四半期の売上高は、78億21百万円（前年同期比3.5%増）となりました。製品群別の売上高の状況は、下記の通りです。

（単位：千円、端数切捨て）

区 分		当四半期累計 (平成19年3月期第1四半期)		前年同四半期累計 (平成18年3月期第1四半期)	前連結会計年度 (平成18年3月期)
		金 額	前年同 四半期比	金 額	金 額
珍 味 売 場	水産加工製品	4,220,689	3.7	4,381,437	17,670,847
	畜肉加工製品	1,075,628	7.8	998,251	4,325,374
	酪農加工製品	900,346	33.8	672,775	3,138,967
	農産加工製品	264,635	3.1	256,587	986,989
	その他製品	525,300	5.4	555,307	2,436,723
	計	6,986,600	1.8	6,864,359	28,558,902
珍 味 外 売 場	小物菓子製品	244,200	4.0	254,458	900,039
	素材菓子製品	540,436	23.5	437,604	1,666,439
	スナック菓子製品	1,334	418.0	257	35,001
	チルド製品	48,960	4,026.0	1,186	55,499
計	834,933	20.4	693,508	2,656,980	
合 計	7,821,533	3.5	7,557,867	31,215,882	

（注）上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

水産加工製品は「いか」を中心とした在来の「乾き珍味」市場の成熟化を背景に、引き続き伸び悩む一方、水産加工製品以外の三製品群はそろって増収となりました。特にチーズ鱈の新しい製品が大きく寄与した酪農加工製品の大幅な増収が目立っております。珍味外売場では、素材菓子製品、チルド製品、スナック菓子製品が増収、一方、小物菓子製品は、一般的に駄菓子といわれる特殊なマーケットであり、流通分野においても様々な参入障壁があるため、新商品の投入による十分な成果が上がらず、減収となりました。

収益面につきましては、増収及び昨年よりコスト戦略の一環として「いか」を中心とした中国での加工度引き上げを実施しており、売上総利益が25億12百万円（前年同期比3.6%増）と増加いたしました。中国生産につきましては、中国リスクも勘案しつつ今後も継続して推進いたします。販売費及び一般管理費は引き続きローコストオペレーションによる全社コスト削減に努めた結果、20億50百万円（同3.5%減）となり、営業利益4億62百万円（同54.0%増）、経常利益4億68百万円（同49.8%増）、四半期純利益は2億71百万円（同52.1%増）と前年同期比増益となりました。

また、当社グループはコーポレート・ガバナンスのより良い体制づくりのため、当第1四半期としては、社外監査役を1名増員し、監査役5名体制とし、本年2月に発足いたしました経営監査部と合わせ、内部統制システムの強化を図っております。

#### 財政状態（連結）の変動状況

当期の連結総資産は235億15百万円（前期比3億82百万円増）となりました。資産の部では主として、たな卸資産、時価評価の影響により投資有価証券が増加しております。負債の部では長期・短期借入金が増加、純資産の部ではアルパイン円貨建転換社債型新株予約権付社債の新株予約権行使により資本金・資本剰余金がそれぞれ増加、利益剰余金も前期比5億15百万円増加した結果、純資産合計は132億93百万円となり、自己資本比率は前期比2.7%増の56.0%となりました。

なお、当社グループは、前期より「固定資産の減損に係る会計基準」（「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成14年8月9日））及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 平成15年10月31日 企業会計基準適用指針第6号）を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。

#### 連結キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、前期比6億79百万円増加し、11億19百万円の収入となりました。主な要因として、税金等調整前四半期純利益が増加したこと、売上債権が減少したこと、法人税等の支払額が減少したことによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前期比2億65百万円減少し、2億15百万円の支出となりました。当第1四半期には、有形固定資産の取得による支出として、賃貸住宅建設代金第二回目支払等で1億92百万円を支払っております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前期比5億22百万円減少し、10億71百万円の支出となりました。主な要因として、短期借入金が増加したことによります。

以上の結果、現金及び現金同等物は、前期比3億56百万円減少し、6億2百万円となりました。

3. 平成19年3月期の連結業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	15,400	430	230
通期	32,000	1,150	630

（参考） 1株当たり予想当期純利益（通期） 44円35銭

（注） 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

業績予想

今後（第2四半期以降）の売上高は、次の諸施策により当初の計画を達成する見込みであります。

需要が高まる夏場に向けた新商品として、香辛料のガラムマサラをブレンドし、本格的なカレーの風味を出した「味と香りのカレービーフジャーキー」を発売する予定であり、今後も付加価値の高い商品を市場へ投入してまいります。さらに、既存商品においても、売上が好調な酪農加工製品、畜肉加工製品の更なる拡販を推進いたします。

珍味売場以外のカテゴリー拡大につきましては、「素材菓子」では、従来の「梅」「栗」などに加え、健康志向も視野に入れ、野菜やドライフルーツを初め、これまで素材としてあまり扱われなかった新たな素材を原料とした、より加工度の高いおつまみの開発を進めております。下期には新しい食感や味の新製品を発売できる見通しです。当期より本格的に取り組んでおります「スナック菓子」では、他社には真似のできないおつまみメーカーの特徴を生かした水産系を主原料とした商品発売を下期に予定しております。

利益面につきましても、当初の計画通りとみております。引き続き原料調達グローバル化を推進し、在庫の適正化、ローコストオペレーションによる販売費及び一般管理費のコストダウン、高付加価値商品の拡販に努め、一層の利益率改善を図ってまいります。

なお、平成18年5月22日公表の中間及び通期業績予想に変更はございません。

## 〔添付資料〕

## 1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円、%)

科 目	当四半期 (平成19年3月期 第1四半期末)	前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期末)	増 減		(参考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
流動資産					
1. 現金及び預金	935,451	1,292,054	356,603	27.6	1,102,179
2. 受取手形及び売掛金	4,415,054	4,221,324	193,730	4.6	4,697,990
3. たな卸資産	4,408,776	4,008,147	400,628	10.0	4,778,473
4. その他	764,797	635,108	129,688	20.4	544,051
流動資産合計	10,524,080	10,156,636	367,444	3.6	11,122,695
固定資産					
1. 有形固定資産	11,389,812	11,561,452	171,640	1.5	11,505,825
2. 無形固定資産	126,174	125,837	336	0.3	122,929
3. 投資その他の資産	1,475,892	1,289,876	186,016	14.4	1,542,824
固定資産合計	12,991,878	12,977,166	14,711	0.1	13,171,579
資産合計	23,515,958	23,133,802	382,156	1.7	24,294,275
(負債の部)					
流動負債					
1. 支払手形及び買掛金	3,043,014	2,853,553	189,461	6.6	2,854,303
2. 短期借入金	2,853,000	2,609,000	244,000	9.4	3,796,000
3. 長期借入金	150,491	336,438	185,947	55.3	193,091
4. 未払法人税等	195,136	132,515	62,620	47.3	31,261
5. その他	1,152,408	1,099,828	52,580	4.8	1,377,905
流動負債合計	7,394,050	7,031,335	362,715	5.2	8,252,560
固定負債					
1. 新株予約権付社債	994,000	1,211,000	217,000	17.9	994,000
2. 長期借入金	909,365	1,089,856	180,491	16.6	938,632
3. その他	924,758	1,308,430	383,671	29.3	958,771
固定負債合計	2,828,123	3,609,286	781,162	21.6	2,891,403
負債合計	10,222,174	10,640,622	418,447	3.9	11,143,964
(少数株主持分)					
少数株主持分	-	160,635	-	-	122,340
(資本の部)					
資本金	-	1,369,625	-	-	1,478,125
資本剰余金	-	1,685,435	-	-	1,793,935
利益剰余金	-	9,238,096	-	-	9,560,149
その他有価証券評価差額金	-	41,429	-	-	198,596
自己株式	-	2,042	-	-	2,835
資本合計	-	12,332,544	-	-	13,027,970
負債、少数株主持分及び資本合計	-	23,133,802	-	-	24,294,275
(純資産の部)					
株主資本					
1. 資本金	1,478,125	-	-	-	-
2. 資本剰余金	1,793,935	-	-	-	-
3. 利益剰余金	9,753,258	-	-	-	-
4. 自己株式	2,854	-	-	-	-
株主資本合計	13,027,970	-	-	-	-
評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金	147,142	-	-	-	-
評価・換算差額等合計	147,142	-	-	-	-
少数株主持分	124,177	-	-	-	-
純資産合計	13,293,784	-	-	-	-
負債及び純資産合計	23,515,958	-	-	-	-

## 2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：千円、%)

科 目	当四半期 (平成19年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	増 減		(参考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
売上高	7,821,533	7,557,867	263,666	3.5	31,215,882
売上原価	5,308,555	5,131,955	176,600	3.4	21,238,525
<b>売上総利益</b>	2,512,978	2,425,911	87,066	3.6	9,977,357
販売費及び一般管理費	2,050,456	2,125,636	75,180	3.5	9,068,643
<b>営業利益</b>	462,521	300,275	162,246	54.0	908,713
営業外収益					
1. 受 取 賃 料	6,273	11,983	5,710	47.7	44,747
2. そ の 他	14,539	20,588	6,049	29.4	80,847
営業外収益合計	20,812	32,572	11,759	36.1	125,595
営業外費用					
1. 支 払 利 息	9,488	11,722	2,233	19.1	43,274
2. そ の 他	5,807	8,705	2,897	33.3	27,857
営業外費用合計	15,295	20,427	5,131	25.1	71,132
<b>経常利益</b>	468,038	312,420	155,618	49.8	963,176
特別利益					
1. 固定資産売却益	9	-	9	-	-
2. 投資有価証券売却益	-	-	-	-	2,733
3. 地域雇用奨励金	-	-	-	-	8,631
4. 企業立地助成金	-	-	-	-	30,266
5. 受取工事補償金	-	-	-	-	40,215
6. 貸倒引当金戻入益	2,300	-	2,300	-	-
特別利益合計	2,309	-	2,309	-	
特別損失					
1. 固定資産除却損	1,184	360	823	228.6	2,046
2. 自主回収関連損失	-	-	-	-	54,001
3. 投資有価証券評価損	-	-	-	-	6,754
4. 貸倒引当金繰入額	-	-	-	-	950
5. 関係会社整理損	-	1,226	1,226	-	2,609
特別損失合計	1,184	1,586	402	25.3	66,362
<b>税金等調整前四半期(当期)純利益</b>	469,163	310,833	158,329	50.9	978,660
税金費用	195,091	132,532	62,558	47.2	437,266
少数株主利益又は少数株主損失( )	2,229	454	2,684	-	270
<b>四半期(当期)純利益</b>	271,842	178,755	93,087	52.1	541,664

### 3. (要約) 四半期連結株主資本等変動計算書

当四半期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年6月30日)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
平成18年3月31日残高	1,478,125	1,793,935	9,560,149	2,835	12,829,374	198,596	122,340	13,150,311
当四半期の変動額								
剰余金の配当	-	-	71,033	-	71,033	-	-	71,033
役員賞与	-	-	7,700	-	7,700	-	-	7,700
四半期純利益	-	-	271,842	-	271,842	-	-	271,842
自己株式の取得	-	-	-	18	18	-	-	18
株主資本以外の項目の当四半期の変動額(純額)	-	-	-	-	-	51,454	1,837	49,617
当四半期の変動額合計	-	-	193,109	18	193,090	51,454	1,837	143,472
平成18年6月30日残高	1,478,125	1,793,935	9,753,258	2,854	13,022,464	147,142	124,177	13,293,784

### 4. 四半期連結剰余金計算書

(単位：千円)

区 分	前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額
(資本剰余金の部)		
<b>資本剰余金期首残高</b>	1,685,435	1,685,435
<b>資本剰余金増加高</b>	-	108,500
社債の転換による新株の発行	-	108,500
<b>資本剰余金四半期末(期末)残高</b>	1,685,435	1,793,935
(利益剰余金の部)		
<b>利益剰余金期首残高</b>	9,175,844	9,175,844
<b>利益剰余金増加高</b>	178,755	541,664
四半期(当期)純利益	178,755	541,664
<b>利益剰余金減少高</b>	116,503	157,359
1. 配 当 金	69,595	139,190
2. 取締役賞与	8,225	8,225
3. 連結子会社除外に伴う減少額	38,682	9,944
<b>利益剰余金四半期末(期末)残高</b>	9,238,096	9,560,149

## 5. (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当四半期 (平成19年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	(参考) 平成18年3月期
区 分	金 額	金 額	金 額
・営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前四半期(当期)純利益	469,163	310,833	978,660
2. 減価償却費	129,515	148,459	597,535
3. 役員退職慰労引当金の増減額	3,525	10,587	767,888
4. 関係会社整理損失引当金の減少額	-	50,000	50,000
5. 受取利息及び受取配当金	5,925	5,645	33,643
6. 支払利息	9,488	11,722	43,274
7. 売上債権の増減額	282,936	98,474	371,560
8. たな卸資産の増減額	114,935	176,128	458,960
9. 仕入債務の増加額	349,078	376,263	367,420
10. 未払消費税等の増減額	98,595	13,105	75,458
11. 役員賞与の支払額	7,700	8,225	8,225
12. その他	288,891	266,809	98,684
小 計	1,154,721	814,894	319,839
13. 利息及び配当金の受取額	5,942	5,665	33,646
14. 利息の支払額	9,512	8,289	42,762
15. 法人税等の支払額	31,219	371,414	662,216
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,119,931	440,855	351,492
・投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 定期性預金の払出しによる収入	-	115,325	115,323
2. 有形固定資産の取得による支出	192,794	76,180	319,883
3. 有形固定資産の売却による収入	-	19,219	34,957
4. 投資有価証券の取得による支出	7,954	7,818	28,446
5. 投資有価証券の売却による収入	-	-	5,063
6. ゴルフ会員権の売却による収入	5,000	-	-
7. 関係会社株式の取得による支出	10,000	-	24,699
8. 連結範囲の変更を伴う子会社株式の 取得による収支	-	447	9,552
9. その他	9,267	140	4,409
投資活動によるキャッシュ・フロー	215,016	50,853	231,646
・財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 短期借入金を増減額	943,000	369,000	818,000
2. 長期借入金の減少額	71,867	123,137	417,708
3. 自己株式の取得による支出	18	15	808
4. 親会社による配当金の支払額	56,364	56,138	139,145
5. 少数株主への配当金の支払額	392	917	917
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,071,643	549,208	259,419
・現金及び現金同等物の減少額	166,728	57,500	323,719
・連結除外に伴う現金及び現金同等物 の減少額	-	76,342	-
・現金及び現金同等物期首残高	769,174	1,092,893	1,092,893
・現金及び現金同等物四半期末(期末) 残高	602,446	959,050	769,174



## 6. 四半期財務情報作成のための基本となる事項

当社は、中間（連結）財務諸表等の作成基準をベースとしつつ、以下のとおり投資者等の利害関係者の判断を大きく誤らせない範囲で一定の簡便な手続を採用しております。

（法人税等の計上基準）

法定実効税率を基礎として実際の税負担額を試算のうえ、調整後法人税として計上しております。

## 7. セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当社及び連結子会社は、主に食品加工品事業を主な事業内容としており、当第1四半期における当該事業区分の連結売上高及び営業利益は、いずれも全セグメントに占める割合が90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

当第1四半期において本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

## 8. その他

該当事項はありません。